【「民都・大阪」フィランソロピー会議／分科会　～取組みの流れ～】

資料１－２

インプット（企画立案）

準備会での検討

各分野を超えた参集・組織化／法人トップ層（参画要請）

各分野に共通する課題を検討/有識者・実務者（参画要請）

大阪府・市の参画
- 公共性・信頼性の担保
- 新たな民間公益活動促進に向けた行政としての環境づくり
- ワンストップ対応による公民連携の促進
- 部局横断的な取組をコーディネート

アクティビティ（活動）

■フィランソロピー会議（本会議）立ち上げ（分野横断）
- 取組みの方向性についての議論
- 参加者間での課題や問題意識を議論
- 情報の共有（分科会での議論をベース）
- まずはフィランソロピー都市宣言、寄付を受け入れる仕組み等を議論

◆大会の実施
- 宣言等で取組み方針を示すとともに、宣言への賛同者等、大阪の民間非営利セクターの厚みを内外に発信

■フィランソロピー分科会立ち上げ
- 資金、人材、情報をテーマに、課題整理からスタート。優先して取り組むべき課題を抽出
- その上で、課題をもとに具体的な取組み方向を検討
  ⇒課題に応じて分科会の構成を見直し
  ⇒取組みの提言や働きかけ、体制づくりへ

アウトプット（直接の結果）

■第１ステップのアウトプット(H29)

フィランソロピー会議
- 多様な主体間での関係づくりネットワークの構築
- 各分野の問題意識等、情報の共有
- 大阪でフィランソロピー都市宣言、賛同者の国内外への発信

分科会
- 具体的な取組みメニュー化に向けた現状整理
- 現場における課題等、情報の共有

フィランソロピー大会
- 大阪での動きの発信（活動の見える化）

■第２ステップのアウトプット(H30)
⇒具体的な取組みに向けた提言・戦略の提示（分科会のアウトプット）

＜資金循環での例＞
- 寄付文化を醸成するための内外への働きかけ、発信強化（府民運動など）
- 遺贈のための相談窓口整備
- SIBなどのソーシャルビジネスへの資金供給手法の検討
- 休眠預金、ふるさと納税の活用　など

＜人材育成での例＞
- 非営利セクター間の人材育成での連携
- 大学などでの教育での連携
- 働き方の発信
- 人材マッチング　など

＜情報発信での例＞
- 情報発信の手法の改善、ITボランティアの活用
- 活動や情報の共有（ポータルサイトなど）など

＜その他＞
- 表彰制度　など

アウトカム（成果）

■会議の提言をベースに参画団体や関係団体の連携や本会議をコアとする組織体の活動により、具体的な取組みへ結実

新たなネットワークでの連携体制の確立
- 情報共有による連携の強化
- 参画者間での個別連携
- オール大阪での発信
- 府市による実現に向けた環境整備

＜提言具体化に向けたプロジェクト創出＞
提案をもとに個別プロジェクトを創出

- 資金循環でのプロジェクト
- 人材育成でのプロジェクト
- 情報発信でのプロジェクト
- その他のプロジェクト

◆フィランソロピー大会での発信

インパクト（目指すゴール）

【当面のゴール】

フィランソロピーを通じた「民都・大阪」の実現

■寄附や社会的投資等の第２の動脈の拡大
- 寄付等の市場の拡大
- 国内外でのフィランソロピー都市としての存在感アップ

■非営利セクターの活動の活性化
- 参画の拡大
- 活動の場の広がり

■ソーシャルビジネスの拡大
- 参画の拡大
- 活動の場の広がり

■運営資金等の確保に向けた取組
- 大会開催に向けたクラウドファンディング・賛同者(サポーター）制度の検討
- 資金循環・人材育成・情報発信等に係る事業へのふるさと納税の活用検討　など

＜議論と参画を進めるための枠子＞

○大阪府市のコミットにより関係府市の行政部局につなげたり、国など他の行政や民間企業等への働きかけが可能。また非営利セクターの信用力向上への支援を行う。
○制度の縦割りを超えたネットワークで議論・発信することで、より多くのサポーターや賛同者を得ることを期待。加えて、国内外からの大阪発の取組みに対する評価を期待。
○民間ベースで自立した運営をめざすが、行政も会議の場や情報発信費用は一定措置。運営のための資金面での仕組みづくりを検討。（クラウドファンディングなど）